

## 6. 演劇活動を取り入れた総合学習の実際

### — 「演劇を通して思いを伝えよう」を通して —

佐藤文宣・長岡素巳

#### 1. 講座の基盤

##### (1) 講座設定の理由

国際化は世界的規模で急速に進展しているが、ここ鳥根県においても、県民の出国数が昨年一年間で約3万人に登り、生徒のなかにも長期休暇を利用して海外に出かけるなど、世界と直接ふれあう機会が多くなってきた。また、松江市においては、外国からの長短期滞在者や定住者を含めた外国人登録者の数が平成6年現在で733名に達し、年々増加の傾向にある。その結果、街角や様々な場面でいろいろな国や民族の人々と接する機会が増えてきた。校内においてもオーストラリアからの在留生徒やAETを迎えて学習や生活を共にしたり、北京大学附属学校との交流を初め外国からの訪問を受けることもしばしばである。

在留外国人の立場から見ると、そのほとんどはアジア系の外国人であり、近年中国などのアジア系の留学生の増加も著しい。しかし、文化や国籍の違いによる偏見や差別を受けた経験をもつ外国人が多く、特に定住している外国人にとっては深刻な問題となっている。

一方、「日常生活の中で外国との結び付きや影響を感じない」と答えた人が50%を越えるなど(平成6年度県政世論調査)、国際化の進展が実際の生活実感には結びついていない現状があり、課題に至っては生徒の大半は知らないのが実態である。

このような中で、公共機関や民間団体は国際交流事業や国際貢献事業の活性化に努め、共生意識の醸成をめざしているが、学校においても人権問題や在住外国人の問題について、学習を進めることが、国際化の重要な柱になってきている。特に、現在行われている地域の国際交流活動の現状を調べ、どのような課題があるかを知ることは、生徒にとっても新鮮な発見となるであろう。そして、それを広く校内にアピールできるような表現活動を取り入れられるならば、国際化の一助になると共に、総合学習のねらいである「現代社会の諸課題に対する認識を深める」ことにつながると考える。

また、演劇は、様々な表現方法が盛り込まれた

総合的な表現活動であると言える。社会的な問題となる事象をもとにシナリオを作る。演技の中には、社会で繰り返される様々な人間模様が展開される。時には人間の持っている醜い姿をも赤裸々に表現する。そして、登場人物の台詞の中には、人々の訴えに似た言葉が表出される。こうした演劇という表現方法を、総合学習の一つの表現活動として取り入れることは、本講座を選んだ生徒の課題に対する認識を深めるだけでなく、鑑賞する生徒の心に何かしら一石を投じることにつながるのではないかと考え、本講座を設定した。

##### (2) 学習活動の工夫

本講座「演劇を通して思いを伝えよう」は、文字どおり、演劇という作品を作り上げることが学習活動の中心である。しかし、ここで忘れてはならないのは、「何のための演劇なのか」である。優れた演劇には主題があり、製作者の訴えに似た願いが込められている。私たちはそんな演劇に感銘を受けるのである。したがって、シナリオ作りから演出、効果、演技といった一連の流れの中に、生徒一人一人の思いが息づくように配慮したいと考えた。

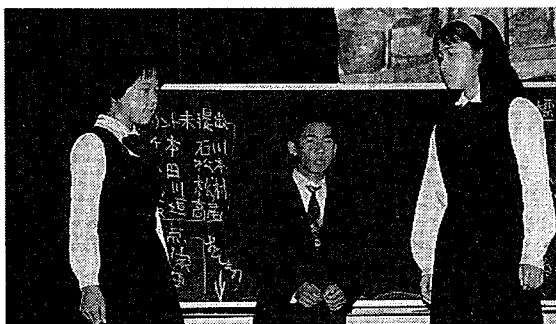
そこで、学習の前半では、生徒の問題意識の耕しとなるべく、調査学習を中心に据えて活動した。これは、社会科の地域調査の発展として、グループごとに国際交流団体を訪ね、国際化の現状と課題を調べるものである。そして、調査学習を通して、分かったことと感じたことを講座内で共有化するのである。この活動は、生徒が演劇活動を行う上で目的意識を持たせる大切な場面であると考え、時間的にも余裕を持たせて取り組ませることにした。

後半では国語科の表現活動の発展として、集めた資料をもとに、脚本・演劇化を行った。本講座には39名の生徒が希望していたので、一人一役を受け持たせ、生徒の責任の所在をはっきりさせ、自主的に活動できるように配慮した。

役割分担は次のようであった。

脚本(シナリオ)……3名  
出演者……16名  
ナレーション……3名

大道具・小道具……7名  
 幕係……2名 照明……4名  
 効果音……2名 ビデオ係……2名



また、本講座は、活動内容の性質から、国語科と社会科の2名の教員によるチームティーチングの形式をとり、役割分担をしながら学習を進めることにした。そして、とりわけ生徒の「認識を深める」というねらいからは、後半の段階に重点を置いて取り組むことにした。

## 2. 目 標

### (1) 最終達成目標

松江市には、さまざまな考え方や文化・習慣のちがう外国人がやってきたり住んでいる。私たちがそれらの人々のねがいや悩みを知り、その課題を見つめ解決の方向を探ることは、よりよい世界をつくることにつながる。

### (2) 視点別目標

現代社会の諸課題について

- ① 同世代の異なる追求の視点を生かす。
  - ・ 外国人への見方や接しかたは、友達によってちがいがあり、その見方や考え方には、友達の個性とともに、私たちに共通する文化がある。
- ② 異世代の異なる見方や考え方にふれる。
  - ・ 国際化や経済の進展により、各団体・地方自治体は、国際交流を拡大することに努め、様々な工夫をしている。
  - ・ 共通する点をもつと同時に、異なる考えや文化・習慣をもつ外国人と松江市民は、互いの文化を学んだり協力したいと願っており、そのためには、解決すべき課題がある。
- ③ 相互に異なる見方や考え方を伝え合い、視野を広げる。
  - ・ 外国人の考えを知ったり、自分の考えを人に伝え表現することが、相互の理解につながる。
  - ・ 以上の思いを演劇を通して、より多くの人々に訴えることで、さらに自分達の考えを深め、これからの生き方を見つけることにつながる。

## 3. 表現活動を生かした学習計画

学習のねらいを達成するため、全員が参加し関わられる学習活動を工夫した。特に、調査→発表→シナリオ化→演劇上演の各過程の中で、自己を表現し集団に関われる場を多く設けるよう配慮した。

以下、表現活動を伴う学習活動を学習過程に沿って挙げておく。詳細は後述する。

- 1、調査発表会 (1時間)
- 2、シナリオ化 (1時間+課外)
- 3、演劇練習 (7時間+課外)
- 4、テーマ別発表会 (2時間)
- 5、レポート作成 (1時間+課外)

## 4. 表現活動を生かした学習の実際

### (1) 調査学習の実際

ガイダンスの後、39名(第1希望32名、第2希望2名、第3希望5名)の生徒が集まり、イメージマップによるレディネスを調査し、学習のねらいや流れの説明をした後、早速1班4～5名の班編成を行い、10班に分かれて調査計画を立てさせた。生徒が選んだ調査場所は次の通りである。

- 1班 島根県国際交流センター
- 2班 A.F.S.日本協会松江支部
- 3・7班 島根県総務部総務課文化国際室
- 4・9班 留学生を応援する会
- 5班 松江市観光善意通訳連絡会
- 6班 松江国際文化協会
- 8・10班 松江市国際交流会館

計画に基づき班ごとにあらかじめコンタクトをとり、次の2時間で校外に出て調査学習を実施した。それぞれの機関・団体の活動内容や課題を質問し、収集した情報を、次の1時間目で班ごとにまとめ合い、さらに次の1時間を使って発表会を開いた。

- 発表のなかで、次のような内容が多く出された。
- ・ 交換留学生、ホームステイ、文化交流、国際会議など、それぞれに国際交流事業を展開しており、島根県や松江市においても様々な活動が行われていることを初めて知った。
  - ・ 交通機関や標識、案内板など町づくりのハード面やアルバイトの手続き、公的機関の利用制限など制度面での課題がある。
  - ・ 外人と呼ばれたり、「はしが使えますか」と食事の度に聞かれたりなど、様々な面で一個人ではなく外国人として区別され、時には偏見の

目で見られたりと、不快に感じる外国人が多い。  
・ 外国人ということで、トラブルが多いと一概に思い込み、住居や部屋を貸せないなどの問題が生じている。

このような発表会の中で、次のような生徒の感想が聞かれた。

調査をしてみて、私が思っていた以上に外国人の方は、差別を受けて傷ついていることが分かりました。私はふだん街でも外国人を見たら「あ、外人だ。」と声には出さなくても思ってしまうのですが、その心からもう差別は始まっていると思います。この気持ちをなくすことは大変難しいことですが、少しずつでもこれからなくしていきたいと思いました。(Y子)

## (2) 脚本・演劇化(表現活動)の実際

調査活動や意見交換会で挙げた問題点を焦点化し、「人権、差別意識」を主題にすることが決まった。脚本係がこれを受け、初め、二つのシナリオを作成した。この二つのシナリオをたたき台にして、講座内で話し合いを行い、場面設定や登場人物について意見交換を行った。そして、推敲の末、できあがったシナリオは次のようなものであった。

### 【あらすじ】

ある高校で、外国人の転校生の兄妹がやってきた。2人は学校の雰囲気にもなれ、うまくとけ込んでいた。そんな時、ある生徒の紛失した時計が、兄のカバンから発見され、犯人扱いされる。まわりの生徒は外国人ということもあって、激しくせめる。この事件と同時に、妹のカバンには、「早く自分の国にかえれ」という手紙が入っていた。

兄の近所に住む女生徒をはじめとして、担任の先生までもが協力して真犯人を探そうとするが、その犯人は意外にも同じクラスの女の子であった。彼女は、中学時代、激しいいじめに遭い、転校したことがあった。それは、彼女がアジア人と日本人のハーフであったからである。

そして、彼女は、うまくなじんでいる兄妹を自分の経験を重ねあわせ、ねたましく思い、いじめという行動に走ったのである。

### 【主題に関わる登場人物の台詞】

・ 日本人にとってそんなに私は特別な？日本人でないことが、日本にいるときには罪に

なるの？人種って何？人種の違っていてそんなに大変なこと？私が黒人だからって傷つく人がいるっていうの？

- ・ 時計があなたの鞆から出てきたときのみんなの表情を見てください？やっぱりと……というような意地の悪い顔。完全に自分たちとは違うんだって顔。一皮むけば日本人みんなそんなもんだよ。よく分かったでしょう。
- ・ 差別からは決して何も生まれないわ。憎しみと同じ悲しみが広がるだけ。受け入れることから始めなくちゃあ。みんな同じなんだから。



もとより、中学生の作るシナリオは、演劇として場面設定に無理があったり、場面や人物像の描写が不十分だったり、未熟な部分が多く見られたが、劇の本質を生かしながら、教師と生徒で見直しを図りながら演じることにした。

また、シナリオの他にナレーション部分を設定し、演技・演出では表現できない思いについて、提言の形で表現させた。その内容は次のようであった。

### 【ナレーション部分】

今の社会は国際化ともてはやされていますがそれはあくまでも物と物とのつながりであって心と心のつながりではないような気がします。みなさんは困っている外国の方を見てどう思いますか。(中略)

今、私たちは本当の国際交流とはいったいどんなものなのかを考えてみる必要があるのではないのでしょうか。私たちは、この演劇を通してみなさんが、少しでもこのことについて考えて下されば幸いに思います。

## 5. 学習の成果と課題

上演時間25分という短い演劇であり、暗中模索で行った講座であったが、生徒の心には、様々な形で国際理解についての課題が認識されたように思う。

同時にいくつかの課題も残している。

それらを、目標に沿って考察していきたい。

目標	①同世代の異なる追究の視点を生かす（自国文化理解）	②異世代の異なる見方や考え方に触れる（異文化理解）	③相互に異なる見方や考え方を伝え合い視野を広げる（表現力）
視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人への見方や接し方は、人により違いがあるが、その見方や考え方には、その人の個性とともに、共通する文化がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際化や経済の進展により各団体・地方自治体は、国際交流を拡大することに努め、様々な工夫をしている。</li> <li>共通する点をもつと同時に、異なる考えや文化・習慣をもつ外国人と松江市民は、互いの文化を学んだり協力したいと願っているが、そのためには、解決すべき課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人の考えを知ったり、自分の考えを人に伝え表現することが、相互の理解につながる。</li> <li>以上の思いを演劇を通して、より多くの人々に訴えることで、さらに自分達の考えを深め、これからの生き方を見つけることにつながる。</li> </ul>
生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>街でいろいろなアクセサリを売っている外国人を見ると、いやだなあと思っていた。でももし、自分が他の国で商売をするとき、同じような目に遭うかも知れないと思うようになった。自分にされていやなことは他の人にもしなないということが大切だと思った。（Y男）</li> <li>外人を差別なんてしてないと思っていた。しかし、「外人」と思うところからもう既に差別は始まっている。「心は同じ、でも外見は違う」とずっと思っていた。日本人は、すぐ肌の色をもちだしてしまうのが残酷。同じように思っていた自分が恥ずかしい。外見そっくりじゃないですか。そう気づいて考え直すことができた。（R子）</li> <li>ある面日本人って、外国人に対して控えめで遠慮しているところがある。アメリカの人に「Hello!」というもおかしい。アメリカ人だって日本に来るからには日本語も勉強してきている。逆の立場になったと思えばすぐわかる。だから今度は「こんにちは」とってあげたい。（S子）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人だから日本のことはよく分からないだろうと、家賃などを日本人より多くとったりする人がいることを知った。その思いを演劇で演じたいと思って頑張ったが伝わったろうか。もう少し時間がほしかった。（N子）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査の段階では、そんな問題があるのだと思うだけだった。でも、演劇をしてみると、実際にその問題に触れたように感じられ、差別を身近に感じた。これからもっと、積極的に外国人の方との交流に関わりたと思った。（A子）</li> </ul>
	<p>アンケート結果</p> <p>1. 総合学習（演劇）で、体験・調査したことから新しいものの見方や考え方に気づきましたか。</p>  <p>2. 体験・調査したことは、自分のものの見方や考え方を見つめ直す機会につながりましたか。</p> 	<p>アンケート結果</p> <p>1. 総合学習（演劇）は、自分のものの見方や考え方を見つめ直す機会につながりましたか。</p>  <p>2. あなたの学習した内容や方法は今後の生活に役立ちそうですか。</p> 	<p>アンケート結果</p> <p>1. 総合学習（演劇）は、自分のものの見方や考え方を見つめ直す機会につながりましたか。</p>  <p>2. あなたの学習した内容や方法は今後の生活に役立ちそうですか。</p>  <p>  とても        はい        わからない        いいえ        全然     </p>

以上のような感想から、本講座開設の成果は次のように挙げられると考える。

- 学習の前半に調査学習を取り入れたことで、シナリオ作りはもとより、現実の問題を目の当たりにして必要感に迫られた活動が展開された。
  - 演劇の台詞作りや演技の面で、繰り返しの練習をしたり推敲を行うことで、自分たちの持った考えを再認識し、問題点を深く掘り下げて考えようとする態度が見られた。
  - 協力して一つの作品を作り上げようとする活動を通して、講座内の生徒に連帯意識が生まれ、磨き合い、高め合う姿勢が見られた。
- 次に今後の課題として特に重要であると考えら

れるもの二点を挙げておく。

- 「人権・差別」という問題点を国際理解という視点で見えていき、生徒の意識変革は少なからず行うことができたと思うが、実際の体験を通して問題点を解決していく実践力を培うには至っていないと考える。在留外国人との直接的な関わりや、聞き取りが必要であったと考える。
- 生徒の心の耕しを図り、演劇という表現活動をするには、20時間ではかなりの無理がある。今後は、調査学習を演劇練習と平行させたり、外国人の方との関わりを活動に取り入れていくことによって、より効率の良い活動を目指していきたい。（さとう ふみのり・国語科、ながおか もとみ・社会科）